

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 一人ひとりの生徒を大切に、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み、地域との連携を推進しながら、次世代のリーダーを輩出する学校
1. **豊かな人間性**（自分の大切さとともに他人の大切さを認め、互いに助け合い、よりよい社会を創っていく忍耐力・責任感・規範意識を持ち、自律して社会を支える力）を育成する学校
 2. **確かな学力と課題解決能力**（基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して自ら考え論理的に思考・判断し、表現する力）を育む学校
 3. **地域連携**（地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼される）を推進する学校
 4. **次世代リーダー**（チャレンジ精神とリーダーシップ力をもち、自主的・積極的に学校での諸活動やボランティア活動などの体験に取り組む）を育成する学校

2 中期的目標

- 1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成
 - (1) H28年度からの専門コース設置に向けて、カリキュラムや授業内容の検討をすすめ、進路実現を念頭においた新カリキュラムでの「学び」の充実をはかる。
 - ア 改編PTが中心となって、新カリキュラムを策定するとともに、新たに設置する教科・科目の準備を進める。
 - イ 外部機関と連携した授業を取り入れるなど、授業の充実を図る取組を推進する。
 ※普通科総合選択の生徒アンケートの中の「『普総選』で学んだこと」への満足度を段階的に引き上げ、平成29年には85%以上にする。
 - (2) 基礎・基本の学力定着から、課題解決に向けた思考力や表現力をはぐくむことをめざす授業改善に取り組む。
 - ア 「朝学」の学習内容の充実や各種検定への参加、基礎学力向上をめざす教材等を通じて、家庭での学習習慣、基礎的・基本的な学力の定着をはかる。
 - イ 授業見学の取組の活性化、ICT機器の整備・活用を通じて、授業改善の取組を推進する。習熟度別授業、少人数授業の効果的な運用を図る。
 ※授業アンケート（2回）の学校平均（H26年度 3・07）を毎年段階的に引き上げ、平成29年度には3.20以上をめざす。
 ※普通科総合選択制の生徒アンケートの中の「身についた学力」の中の、「考える力」（H26 63.8%）「表現する力」（H26 62.8%）「発表する力」（H26 61.8%）「コミュニケーション力」（H26 62.8%）を、それぞれ引き上げ、平成29年度にはそれぞれ10ポイント以上の増加をめざす。
- 2 基本的な生活態度の確立に向けた指導体制の構築
 - (1) 規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組を推進し、遅刻指導を徹底する。
 - ア 遅刻撲滅に向けた校内取組体制を全教員の共通理解のもとで再構築するとともに、家庭との連携協力体制を確立する。
 ※生徒の年間遅刻総数1000以下（平成26年度 922）を維持するとともに、遅刻総数/在籍生徒数1.0以下をめざす（平成26年度 1.34）
 - イ 全教員による朝の「おはよう」運動と日常の学校生活における挨拶を奨励する。
 - ウ 制服指導や交通マナーなどの向上や校内美化に向けた取組を推進する。
 ※学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒（平成26年度 75%）の割合を毎年段階的に引き上げ、平成29年度には80%以上をめざす。
 - (2) 教育相談室の整備と相談教員の常駐体制を確立する。
 - ア 教育相談委員会を中心に生徒情報の収集に努め、全教員でこれを共有するとともに、学校として家庭・地域との連携を密に行う。
 - イ 支援教育コーディネーターを中心に、課題のある生徒に対する個別支援の取組を推進する。
 ※学校教育自己診断における「相談できる先生がいる」生徒の割合（平成26年度 59%）を毎年段階的に引き上げ、平成29年度には70%にする。
- 3 「志」や「夢」の実現に向けた指導計画の確立と指導・支援の充実
 - (1) 進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を展開する。
 - ア 高い志を持ち続けることができるよう、「自分を知る」をテーマとした進路学習の指導計画と、授業や「総合的な学習の時間」とLHRの時間を連動させた年間指導計画を策定し、生徒の進路実現をはかる。
 ※生徒の進路希望実現率（3学年当初の進路希望の実現率・「決定数/当初の希望数」）を毎年90%以上をめざし、進路未決定者を減少させる。
 （H26 実現率 85.4% 大学・短大 96/94 専門学校等 59/65 就職 19/28 〈学校斡旋は 14/14=100%〉、未定〈浪人・非正規雇用を含む〉32/5）
 ※普総選アンケート「卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連がある」（H26 49.3%）「自由選択科目は進路を実現する力をつける上で役に立った」（H26 53.3%）を毎年段階的に引き上げ、平成29年度はそれぞれ10ポイントアップをめざす。
 - イ 生徒の進路実現に向けた進路指導体制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として漢字検定、英語検定、サービス接遇検定等に生徒がチャレンジすることを一層促進する。
 - ウ 近隣大学（四天王寺大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。
 - (2) 豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。
 - ア 3年間を通じた人権教育の指導計画を策定し、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を身に付けさせる。
- 4 地域と連携した安全・安心で、魅力のある学校づくり
 - (1) 地域と連携した取組を推進するとともに、広報活動を強化して学校の魅力を発信する。
 - ア 生徒の出身中学校訪問、学校説明会への参加、地元の各種イベントへの参加や協力等を通じて、生徒の自己有用感を高めるとともに、本校の特色を広く周知するよう努める。
 - イ ICTの活用等により情報化・効率化を図り、教職員が時間的・精神的な余裕を持てる環境を整備するとともに、積極的な情報提供、広報活動を展開する。
 - (2) 地域と連携した、安全・安心、環境美化・保全等の取組を推進する。
 - ア PTAと連携しながら、あいさつ運動や校外清掃、環境美化の取組を推進する。
 - イ NPO等と連携しながら、生徒とともに地域の環境保全活動に取り組む。
 - ウ 地域の外部人材や施設を活用しながら、生徒の学ぶ意欲の向上や進路実現のために役立つ体験的な授業や講座を開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】肯定的回答率が昨年度より5ポイント以上増加した項目は「学校に行くのが楽しい」「この学校に入学してよかった」「授業は分かりやすい」「相談できる体制ができていいる」等、25項目中16項目あり、ほとんどの項目で肯定的回答率が増えた。一方、5ポイント以上減少した項目は一つもなく、学校全体での取り組みの成果がようやく表れたと思われる。ただ、「授業で自分の考えをまとめ発表する機会がある」「補習講習に参加している」等の肯定的回答率が50%に満たない項目が4項目あり、来年度以降一層の授業内容の改善と補習講習の取り組み強化が必要である。</p> <p>【学習指導】「授業はわかりやすい70%(12%↑)」「授業への充実感・満足感59%(14%↑)」の2項目は大幅に上昇し、生徒側の授業満足度は大いに向上した。しかし、「発表する機会がある44%(1%↓)」、「補習講習への参加28%(6%↑)」等の項目は肯定的回答率が過半数に達せず、授業内容と工夫の点から見た授業改善の取組は不十分である。また、「授業時間以外の学習1時間以上26%(4%↑)」は依然として低い水準で、家庭学習を含め授業以外での学習を喚起する取組みや機会の確保が必要である。</p> <p>【生徒（進路）指導】「マナーやルールを守っている93%(7%↑)」にみられるように生徒指導面では安定した成果が見られる。同時に、「相談できる体制あり73%(11%↑)」「困っていることに真剣に対応65%(11%↑)」等、教育相談に係る項目は昨年度より大幅に上昇し「厳しく」「寄り添う」生徒指導は確立されつつある。また、「進路に関する情報提供82%(5%↑)」「進路を考える機会81%(14%↑)」の肯定的回答率は8割を超えており、3年間を見通したキャリア教育の体制も一定の確立をみつつある。</p>	<p>第1回（H27.7.24）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介リーフレットは、すべての類型やコースの時間割表を示した方がわかりやすい ・交通の便が悪くても選んでもらえる魅力作りをさらに努力してほしい ・これまでの実績に基づいた実現可能な進路目標を立てたほうがよい ・落ち着いた学校というのが本校の良さ、それをもっと発信してほしい <p>第2回（H27.12.10）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなクラブの活動についてもっと幅広く発信してほしい ・懐風館のわかりやすいイメージづくりが必要 ・落ちていることは良い要素（環境がよいこともアピールし、不便さをアピールポイントにするべき） <p>第3回（H28.2.24）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職を含め、進路希望の実現および社会で通用する人材育成の基本は基礎学力なので、その点は今後も重視するべき。 ・プレゼンテーションのノウハウを教えても発表する内容がなければ意味がない。プレゼンはあくまでもツールである。 ・専門コースは看板になるので、中学生や保護者の高校選択の際に魅力のあるものでなければならない。独自性あふれるコース内容になるような努力と発信が必要。

府立懐風館高等学校

<p>【その他】「文化祭等行事が楽しい64%(18%↑)」「人権について学ぶ69%(6%↑)」も上昇しており今後とも総合的な学習等を活用し、豊かな人間性を育む取組みの充実を図りたい。</p>	<p>・専門コースを選択する生徒が校内の行事やクラブ活動でも中心的役割を担うリーダーになれるようなものになればよい。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>「確かな学力」と「学び」への主体性の育成</p>	<p>(1) H28年度からの専門コース設置に向けた教育課程の編成 ア 専門コース設置のためのPTを中心に教育課程を策定し、新しい教科・科目の準備をすすめる。 イ 外部機関と連携した授業を取り入れるなど、授業の充実を図る取組みを推進する。 (2) 基礎的な学力の定着と「分かる授業」「思考力・表現力をはぐくむ授業」をめざした授業改善の取組みを推進する。 ア 基礎学力の定着をはかる取組みを推進する。 イ 授業改善の取組みを推進する</p>	<p>(1) ア・生徒の学力伸長、進路実現を図るという観点にたつて、専門コース設置を含めた新しいカリキュラムを策定する。 ・専門コース設置に向けた施設・設備の改修や物品の整備を図り、それらを活用した学習活動を展開する。 ・ICT機器の導入等、エリアの授業充実のための環境整備を行う。 イ・外部講師の招へいや外部機関と連携した体験的な授業の実施等(保育体験や高大連携授業等)を通じて、授業を充実させるとともに、生徒の進路実現に資する。 (2) ア・1学年での英数やエリアでの少人数展開授業、「朝学」の実施により、生徒の基礎的・基本的な学力の定着・増進をはかる。 ・基礎学力の定着と家庭学習の充実をはかるための「オリジナル教材」の作成とその活用をはかる。 ・漢字検定等様々な検定への参加を働きかけることにより、チャレンジ精神を育み、ワンランク上の級への合格をめざす取組みを推進する。 イ・授業改善のためICT環境の整備・活用を促進する。 ・指導教諭を中心とする授業改善委員会が主体となって、年2回(6月、11月)に授業公開週間を設定し、すべての教科で研究授業を行い、校内での授業改善のための研究・研修を活発にする。</p>	<p>(1) ア・府教育委員会HPでの「学校概要」の掲載 ・普通科総合選択の生徒アンケート「エリアの学習は興味・関心を満足させた」への肯定的回答率を昨年以上とする。(H26 70.8%) イ・同アンケートの「自由選択科目は進路実現に役立った」に対する肯定的回答率を昨年以上とする。(H26 53.3%) (2) ア 学校教育自己診断で「授業以外に1日あたり約1時間以上学習(講習・家庭学習等)をしている」生徒の肯定的回答率が3割を上回ること。(H26 19%) ・各種検定の合格者数等、昨年度の実績数()内の人数を上回ることをめざす。 漢検 準2級以上の合格者(2級3、準2級26) 英検 準2級以上の合格者(準2級7) サービス接遇の合格者数(H26 準1級3人、2級10人3級35人) イ・学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率が6割以上とする(H26 60%) 同アンケートの生徒の授業満足度(H26 49%)10ポイントアップをめざす。</p>	<p>(1) ア・PTを中心とした教育課程の編成、専門コース設置に向けた施設の改修や備品の設置等は、順調に進んでいる。 [評価 ○] ・「エリアの学習は興味・関心を満足させた」への肯定的回答率は、77.2%で6.4%上昇した。 [評価 ○] イ・授業の中での新たな外部との連携はできなかったが、これまでの継続的な取り組みが成果を表した年度であったと言える。 [評価 ○] ・「自由選択科目は進路実現に役立った」への肯定的回答率は、61.9%で8.6%上昇した。 [評価 ○] (2) ア・少人数授業や朝学は継続的に実施し、定着している。基礎学力定着のための学校独自教材の作製は、英語のみで不十分な取り組みとなった。また、英検や漢検への挑戦は継続しているが、前年度を上回る成果は得られなかった。 [評価 △] ・「授業以外に1日あたり約1時間以上学習(講習・家庭学習等)をしている」生徒の肯定的回答率は、26%で4%上昇にとどまった。 [評価 △] イ・年間二度の授業公開週間やその間に実施された研究授業等の成果が現われ、生徒の授業満足度は大幅に上昇した。また、ICTを使った授業も徐々に増加してきている。 [評価 ○] ・「授業はわかりやすい」の肯定的回答率は、70%で10%と大幅に上昇した。「授業に満足し充実している」の肯定的回答率は、59%で10%大幅に上昇している。 [評価 ○]</p>

府立懐風館高等学校

<p>基本的な生活態度の確立に向けた指導体制の構築</p>	<p>(1) ルールやマナーを守り、規範意識に富んだ生徒を育成する取組み ア 「おはよう」運動の展開、「あいさつ週間」、ノーチャイムデーの実施 イ 制服指導や交通安全指導等の推進</p> <p>(2) 教育相談体制の確立 ア 教育相談の活性化 イ 支援教育コーディネーターの活用</p>	<p>(1) ア・毎朝の「おはよう運動」、年3回のあいさつ週間（各1週間）を実施するとともに、業間遅刻をなくすため、毎授業「5分前集合」「2分前着席」の声かけをして徹底を図る。 ・生徒の自主性を育む観点から、ノーチャイムデーを実施する。 イ・警察等の外部組織から講師を招いて薬物や交通安全についての講習会等を実施するとともに、全教職員が一致した基準で指導することを通じて、生徒の規範意識を高める。 (2) ア・隔週に教育相談委員会を開催し、生徒情報の共有化に努める。さらに学年団会議や職員会議等で全教職員が情報を共有する。 ・担任のカウンセリングマインドを高める研修を実施するとともに、教育相談室の整備・拡充及び活用促進のための周知徹底等、日常の相談体制を強化する。 イ・特別支援教育コーディネーターを中心に、課題のある生徒の学校生活を支援する。</p>	<p>(1) ア・生徒の年間遅刻総数 1000 以下を維持するとともに、遅刻総数/在籍生徒数 1.3 以下をめざす（平成26年度922 遅刻総数/在籍生徒数 1.34） イ・学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合（平成26年度75%）を昨年以上とする。 ウ・学校教育自己診断における「ルールを守って生活している」生徒の割合（平成26年度89%）を維持する。 (2) ア・月に2回以上、支援会議を行う。学校教育自己診断における「相談できる先生がいる」生徒の割合（平成26年度59%）を昨年以上とする。 イ・支援を必要とする生徒の支援を充実させる。 当該生徒・保護者との面談やカウンセリングの回数</p>	<p>(1) ア・「おはよう」運動は各学期に一回ずつ実施し、全教員だけでなく、本年度からは各クラスの風紀委員も門に立ち、「あいさつ運動」をさらに発展した形にすることができた。 [評価 ○] ・ノーチャイムデーは月に1回をめどに実施し、生徒の自主性を育てる取り組みとして定着した。年間遅刻総数 837/在籍生徒数は、1.2であった。 [評価 ○] ・「挨拶をする生徒」の肯定的回答率は、77%と2%上昇した [評価 ○] イ・羽曳野警察少年係より講師を派遣してもらい、薬物使用の現状とその害について2度にわたる講演を実施した。 [評価 ○] ウ・「ルールを守って生活している」生徒は、93%と4%上昇した。 [評価 ○] (2) ア 教育相談委員会を10回開催し、生徒情報を共有し必要な場合は、適切な対応を検討した。「相談できる体制ができています」ととらえる生徒は、74%で15%も大幅に上昇した。 [評価 ◎] イ 支援教育コーディネーターは、2名体制とし、保護者担当の教員と、スクールカウンセラーとの連絡調整係に業務を分担し円滑な支援活動に寄与した。SCによる面談12回、支援コーディネーターによる面談60回 [評価 ○]</p>
<p>「志」や「夢」の実現に向けた指導・支援の充実</p>	<p>(1) 3年間を見据えたキャリア教育の推進 ア 自己（進路）実現に向けた進路指導の充実 イ 各学年、各教科による基礎学力の保障及び卒業後の進路実現を図る取組みの推進</p> <p>(2) 豊かな人間性を形成するための教育の推進 ア 人権教育の観点や「生徒に育みたい力」を踏まえた学習活動の充実を図る。</p>	<p>(1) ア・生徒の進路意識の高揚や、自己（進路）実現のため、進路関係行事の実施計画を立案・実施する。（進路体験行事、懐風館セミナー（大学等の出前講義）等） ・教育産業とも連携しながら、生徒の自己実現に向けた意識高揚を図る取組みの充実を図る。 イ・進路実現を図る教育課程（H28年度入学生分）を策定する。 ・進路指導体制構築のため、教職員研修等を充実させる。 ・補習や進学講習など、生徒が自ら学ぶ意欲を高め、参加するよう働きかけを強め、その機会を充実させる。 ・家庭学習を習慣づけるための取組みを推進する。 (2) ア・「自主性」「自立・自律」「規範意識」「感受性」など、豊かな人間性や人権感覚を育むために、「総合的な学習の時間」やLHRを有機的に連携させながら学年ごとの年間計画を作成し、実施する。 ・身近な生活の中で生起する人権課題（SNSによるいじめ）や障がい者理解を学ぶ機会を設けるなど、すべての教育活動において、人権感覚を養う取組みを行う。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断で「進路についての情報提供が役立った」生徒が80%を上回ること。 イ・学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の肯定的回答率が30%を上回ること。（H26 24%） ・学校教育自己診断で「授業以外に1日あたり約1時間以上学習（講習・家庭学習等）をしている」生徒の肯定的回答率が3割を上回ること。（H26 19%） (2) ア・学校教育自己診断で「人の生き方」「命の大切さ」社会のルールを学ぶ機会がある生徒が70%を上回ること（H26 69%） ・学校教育自己診断で「人権について学ぶ機会がある」生徒が65%を上回ること。（H26 62%）</p>	<p>(1) ア・3年間を見通した進路意識の高揚、自己実現のための企画が功を奏し、生徒の進路意識は高くなった。「進路についての情報提供が役立った」生徒が82%と2%上昇した。 [評価 ○] イ・生徒が自発的に学習するように教員が働きかけ、切磋琢磨する雰囲気を醸成することが不十分であった。学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の肯定的回答率が28%で2%上昇にとどまった。 [評価 △] ・学校教育自己診断で「授業以外に1日あたり約1時間以上学習（講習・家庭学習等）をしている」生徒の肯定的回答率が26%と7%上昇した。 [評価 △] (2) ア・「総合的な時間」やLHRを使用し、人権感覚を養うような取り組みを積極的に導入した。「人の生き方」「命の大切さ」社会のルールを学ぶ機会がある生徒が78%で9%上昇した。 [評価 ○] ・学校教育自己診断で「人権について学ぶ機会がある」生徒が69%で7%上昇した。 [評価 ○]</p>

府立懐風館高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域と連携した安全・安心で、魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動を強化し、学校の魅力の発信 ア 広報用資料の改定 イ 中学校訪問、学校説明会等広報活動のさらなる充実 ウ ICT等を活用した情報提供、広報の充実 (2) 地域と連携した取り組みの推進 ア 新教育課程の円滑な実施に向けた地域連携の強化 イ 地域と連携した生徒の自主的・主体的な活動の推進 ウ 地域や外部機関と連携した教育活動の推進</p>	<p>(1) ア・専門コースの設置や学校の様々な取組みを、中学生や保護者に周知するために、H28 年度入学生に向けた新しい広報パンフレットを作成する。 イ 中学校訪問や学校説明会（部活動体験・学校体験等）を充実させ、H28 年度からの新教育課程の周知に努める。 ウ・HP の随時更新や、本校の取組み等を発信し、広報に努めるとともに、メール配信等により保護者への適切な情報提供を行う。 (2) ア 地域と連携した新しい教科・科目の準備のために、地域の関連機関と連携して、準備を進める。 イ・支援学校との交流や地元の各種イベントへの参加や協力等の機会を増やし、生徒の自己有用感を高める。 ・地域と連携した環境保全（カワバタモロコ<絶滅危惧種>の保全等・環境美化（通学路清掃等）の活動を行う。 ウ・PTA・地域や外部機関と連携しながら、生徒の安全や安心を高める取組みや環境整備をすすめる。（環境美化・緑化、熱中症対策や交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等）</p>	<p>(1) ア・新しい広報用パンフレットの完成 イ・中学校訪問回数や説明会等への参加者を昨年以上とする。（H26 校内実施 570、校外実施 700） ウ・HPの更新数、メール等の配信回数を昨年以上とする。（H26 HP の更新回数 91 回メール配信回数 125 回） (2) ア・H29 年度から始まる、地域と連携した教科・科目（『サービスラーニング』入門及び実践）の連携先との協議を進め、内容や評価方法を決定する。 イ・それぞれの活動に参加する生徒数（H26 支援学校との交流参加者 50 人） ウ・学校教育自己診断における「校内の花や緑が増えた」の割合を 70%以上にする。（H26 68%） ・学校教育自己診断で「人の生き方」「命の大切さ」社会のルールを学ぶ機会がある生徒が 70%を上回ること（H26 69%）</p>	<p>(1) ア・新しい広報用パンフレット等完成 【評価 ○】 イ・中学校訪問回数は 187 で、昨年を上回った。説明会等への参加者は、校内実施 565、校外実施 686 と昨年とほぼ同数であった。 【評価 ○】 ウ・HP 及びFB の更新数は、94 回、メール等の配信回数は、124 回と昨年とほぼ同数であった。 【評価 ○】 (2) ア・地域と連携した教科・科目（『サービスラーニング』入門及び実践）については、準備委員会を 2月に立ち上げた。 【評価 ○】 イ・富田林支援学校との交流会は、2回実施し、交流に参加した生徒数は、95 人で昨年度のほぼ倍であった。 【評価 ○】 ・カワバタモロコの保全活動は、一層広がりを見せ、活動に参加する地域の方々の活動拠点になりつつある状況である。 【評価 ○】 ウ・学校教育自己診断における「校内の花や緑が増えた」の割合は 81%と 13%上昇し、校内の美化や緑化運動の成果が表れてきた。また、PTAと教員が一緒に花や木を植えるフラワープロジェクトを 2回（1月2月）実施することができた。 【評価 ◎】 ・学校教育自己診断で「人の生き方」「命の大切さ」社会のルールを学ぶ機会がある生徒は、78%となり 9%上昇した。近隣の大学から福祉系の学生にボランティア活動の体験を語ってもらう取り組みなどが好評であった。 【評価 ○】</p>
---	--	--	--	--